

## 現代日本語感動詞「あら」の音調と意味

謝霞

日本語感動詞は、同じ語でも、その使用場面の相違により、異なる使われ方をされることがある。小林隆・澤村美幸（2017）「感動詞の方言学」（『方言学の未来をひらく：オノマトペ・感動詞・談話・言語行動』ひつじ書房）は、感動詞には一つの基本的意味があり、それに様々な音調的操作によって何らかの意味が加えられ、それぞれが異なる意味で実現されると指摘している。しかし、従来の研究では、音声の特徴を視野に入れながら、感動詞の基本的意味と音調的操作が持つ意味を分けて述べているものは極めて少ない。本発表では、感動詞「あら」を取り上げ、その基本的意味と音調的操作が持つ感情的意味を明らかにする。

本発表は、まず、『BTSJ による話し言葉コーパス』『名大会話コーパス』『BCCWJ』を用いて、「あら」の用例を収集・分類した。すると、その用法は喜び用法・同情用法・残念用法・感心用法などの 11 類に分けられる。そして、それらの用法の代表例各 3 例、合計 33 例を東京内・中輪系式アクセント地域出身者の 10 人のインフォーマント（20 代女性）に、発表者と対話する形で発話（3 回繰り返す）してもらった。それらの音調を praat により分析し、音調の共通する用法を纏める。その上で、各音調に共通する意味、つまり、「あら」の基本的意味を分析し、また、それぞれの音調が担っている感情的意味を導き出した。

その結果、日本語感動詞「あら」は、「想定外の事態や情報を心の中で察知した際に、意外だったので、驚いている」という基本的意味を持つことが明らかになった。また、「あら」の持つ音調は 4 種類で、平坦調は、「不本意ながら、目の前の状況や情報を受け入れている」という意味、急上昇調は、「疑念を抱いて、目の前の状況や情報を受け入れられない」という意味、下降調は、「相手の考えを否定し、自分が異なる意見を持っている」という意味を表す。これに対して、山型調は、何らかの意味を付与する積極的な操作ではなく、無標の音調であると考えられる。